

第3回超深地層研究所安全確認委員会 会議録

1. 日時:平成 15 年 8 月 19 日(火) 13:00～14:00
2. 場所:瑞浪市陶磁器会館 3F 大ホール「瑞雲の間」
3. 出席者:高嶋芳男委員長(瑞浪市長), 橋場克司副委員長(県地域計画局長), 大野信彦副委員長(土岐市助役), 日比野徳委員(戸狩区), 吉田実委員(山野内区), 安保征示委員(瑞浪市連合区長会長), 稲垣重男委員(土岐市民), 今井秋男委員(瑞浪市議会), 土本紳悟委員(土岐市議会), 工藤輝夫委員(瑞浪市企画部長), 高木巖委員(土岐市企画部長), 小野崎弘樹委員(東濃地域振興局長), 青木治三委員(名古屋大学名誉教授)
4. オブザーバー:山近英彦(資源エネルギー庁 放射性廃棄物対策室長)
大澤正秀(東濃地科学センター所長)
5. 報道関係者:中日新聞, 岐阜新聞, 毎日新聞, 読売新聞
6. 傍聴者:5 名
7. そのほか:自治体関係者, サイクル機構関係者など
8. 委員会議事内容
 - (1) 高嶋委員長挨拶
 - ・前回の安全確認委員会以降, 4 年半ぶりの開催であり, 動燃事業団がサイクル機構に, 研究所の設置が正馬様用地から戸狩・山野内の市有地になるなど, 背景が変わった。
 - ・正馬様用地はサイクル機構の所有地であり, また, 目の届きにくい奥まった場所であるので, 放射性廃棄物の最終処分場になるのではないかと懸念が安全確認委員会設立当初はあった。
 - ・しかしながら, 市有地でもあり, サイエンスワールドに隣接する現在の研究所周地が最終処分場になるはずがないというご理解を得つつある。また, 法律に基づく実施主体の設立によって, サイクル機構の研究所がなし崩し的に最終処分場にはならないことが明文化されている。
 - ・瑞浪市は高レベル放射性廃棄物の処分に関する研究に寄与するという役割を分担し, 原環機構が公募している処分場への応募は行わない。高レベル放射性廃棄物の安全な処分方法を確立し, 瑞浪市から全世界へ情報を発信していく。
 - (2) 確認および報告事項

事務局より資料に基づき, 以下の点について報告および確認が行われた。いずれも配付資料のとおり承認された。質問なし。

 - ① 要綱の一部変更について
 - ② 要綱第 2 条第 1 項第 2 号の研究所の範囲について
 - ③ 前回までの安全委員会の概要
 - (3) 核燃料サイクル開発機構の事業計画について

東濃地科学センター大澤所長より別添資料「超深地層研究所」に基づき、事業計画の説明が行われた。質問は以下のとおり。

青木委員:深度 1,000 m 到達が平成 21 年度末で、研究終了が平成 27 年を予定しているが、研究期間が短くはないのか、また、ベントナイトなどの粘土鉱物を持ち込んでの調査を行うのか。

大澤所長:最深部に到達する過程、つまり掘削すること自体も研究開発の要素であり、調査・試験は掘削しながら進めていくので、このような研究計画となっている。また、東濃地科学センターでの研究対象は「天然現象」と「地層の閉じこめる能力」(別添資料参照)であるので、「人工の閉じこめる対策」で使用するベントナイトを使つての人工バリアの研究は行わない。

(4) 協議事項

① 委員会の進め方について

安保委員:事業計画では平成 21 年度末に深度 1,000 m 到達する予定とのことだが、立坑を掘削している間、年に 1 度事業説明会を受けるとともに研究所を視察し、安全を確認してはどうか。

日比野委員:戸狩区では今年度より安全確認という意味で「監視委員会」を設置した。この監視委員会などとタイアップして安全の確認をしてはどうか。

事務局:深度 300 m までが掘削の第 1 段階と聞いており、この深度以降の段階で監視方法を考えたい。例えば、掘削中の地下の様子が分かるようにサイエンスワールドなどにモニターを設置して、大勢の人に地下の掘削の様子などを知ってもらうなどの対策を考えたい。

青木委員:安全確認という観点では工事現場の安全のような話になっていっているが、放射性物質などを持ち込ませないという本来の目的を今一度、思い起こしていただきたい。放射性物質を試験研究で使用する可能性はないのか、どのようにして放射性物質の持ち込みをチェックするのかなどを考えなくてはならない。

高嶋委員長:この委員会では放射性物質の持ち込みを見分けるだけの能力はない。その場合は専門家を同行して確認するなど、今後の対応を考えたい。今回は、4 年半ぶりの委員会開催であったので、今後、委員会が活動していくことを全員で確認したということで、閉会したい。

平成 15 年 8 月 19 日

事務局 瑞浪市企画部学園都市推進室